

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和5年11月15日

提出区分	実績	整理番号	10	課題区分	C
横断的な課題	多様な暮らし方・働き方の提案による移住定住の促進・地域人材の確保				
地域重点政策	2 観光誘客や移住者増加につながる地域の魅力を高め、発信する				北アルプス地域振興局
実施機関	北アルプス地域振興局		担当課	所属	企画振興課
事業名	ウィキペディアタウン開催事業			電話	0261-23-6501
				E-mail	<a href="mailto:kitachi-kikaku@pref.nagano.lg.jp">kitachi-kikaku@pref.nagano.lg.jp</a>
事業の概要等	目的 (目指す姿)	若者等が実際に地域を歩き、自らの手で地域の情報を発信する「ウィキペディアタウン」を実施することで、地域への愛着を高め、シビックプライドの醸成を図る。また、地域外の参加者と地域が繋がる機会を創出する。			
	現状と課題	若者の都市圏等への流出に伴い、地域活力の低下が懸念される。若者が地域に住み続ける、あるいは県外等への進学後にUターンしてもらう動機づけとして、地域への愛着を高めることが重要。			
内容 (変更後の内容)	日時	令和5年10月21日(土) 9:30~17:00			
	場所	市立大町図書館 視聴覚室(大町市大町4710-6)			
	主催/共催	北アルプス地域振興局/大町市・大町市教育委員会・県立長野図書館			
	講師	諸田和幸氏(UDC長野ブロックコーディネーター/フォトグラファー)			
	募集人数	20名			
	参加人数	9名			
	時刻	内容			
	9:30 ~ 9:40	開会・オリエンテーション(9:00~受付開始)			
	9:40 ~ 10:15	ガイダンス ○「大町市の概要について」 説明: 大町市文化財センター 勝野氏 ○「図書館でウィキペディアタウンをする理由in大町」 説明: 県立長野図書館 干川氏 市立大町図書館 桑山氏 ○「地域のタッチポイントをつくる」 説明: 諸田和幸氏			
	10:20 ~ 12:10	まち歩き(市内をマイクロバス・徒歩で見学) 大町図書館→栗林家住宅→中心市街地(徒歩)→若一王子神社→大町図書館			
12:10 ~ 13:10	昼食・休憩				
13:10 ~ 15:45	記事の執筆・編集 ①大町市(加筆修正)、②若一王子神社(加筆修正)、③栗林家住宅(新規)				
15:50 ~ 16:15	成果発表・講評				
16:15 ~ 16:30	まとめ・集合写真撮影				
17:00	閉会				
事業期間	R5.8		~	R5.10	
事業費等	(単位:円)				
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考	
	ウィキペディアタウンの開催	ウィキペディアタウンの開催	95,487		
	合計		95,487		
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況
	イベント参加者数		16人以上 (募集人数の8割)	9人	○ 達成
	10代~30代の参加者数		参加者の5割以上	2人(22%)	○ 一部達成
	アンケート結果 市に興味を持てたか(5段階中4以上)		参加者の8割以上	7人(78%)	● 未達成
アンケート結果 ワークショップ満足度(5段階中4以上)		参加者の8割以上	6人(67%)		

事業実績・成果	<p>○若者の参加について 参加者9名のうち30代以下は2名だった。地域の若者団体や高校等に広報を行ったが、若者の参加に結びつかなかった。</p> <p>○ウィキペディアの記事について 執筆事項として「大町市」(既存記事への加筆)、「若一王子神社」(既存記事への加筆)、「栗林家住宅」(新規作成)を設定した。参加者自身がまち歩きや図書館の文献調査等を踏まえ、これらのページを執筆・編集することにより、新たな情報がインターネット上で公開され、大町市の魅力・情報の発信につながった。既存記事は、イベントの前日と比べ、翌日は閲覧数が増加した(大町市1.7倍、若一王子神社4倍)。特に「大町市」については、市が水をテーマにしたブランド力向上を進めていることから、これまで既存記事に記載されていなかった水に関する情報を追加し、市が実施するブランド戦略に沿った情報発信に寄与した。</p> <p>○参加者の満足度等について 参加者から回収したアンケート(回答7人/9人、回収率78%)によると、イベント内の各プログラムに対する満足度は、8割以上の方が「満足(5段階中4以上)」と回答した。また、「参加後、大町市に対して関心・興味が変化したか」という問いには、7人全員が「関心が増した(5段階中4以上)」と回答した。</p> <p>○参加者同士の交流について 年代も居住地も様々な参加者が共同でワークショップを行ったことにより、新たな交流のきっかけを作ることができた。</p> <p>○総括 5市町村での開催を通じ、管内の図書館関係者やウィキペディア編集経験者のつながりをつくることができた。今後、このつながりを活用し、管内の図書館等でウィキペディアタウンが継続して開催されることに期待。</p>
今後の方向性	北アルプス地域の全5市町村で開催したため、振興局直営での開催は当年度で終了。